

道路空間活用事例調査研究(中間報告)

—官・民・学の連携による活用に着目して—

○道路空間の活用事例として、松山市花園町通りと福山市アイネスフクヤマ東側歩道部分は、官・民・学の多様なつながりが上手く構築された事例であり、以下の特徴が見られた。

- ・官民の連携が行われている
 - 民が日常的に、主体的かつ積極的に空間の活用を行っている。
- ・丁寧な事前プロセスを経ている
 - 社会実験や地元説明会等を積み重ね、整備と活用が実施されている。
- ・近隣の公共空間との連携が見られる
 - 近隣の公共空間と連携し、エリアが一体的となるよう市の計画に位置付けられている。
- ・官・民に加えて「学」の参画がある
 - 公共活用の計画段階や社会実験、実際のイベント等で学の参画がある。

これらが相互に作用し合い、より公共空間の活用が深化しており、道路という公共空間の活用により賑わいが創出され、多様な人が集う、出会う、交流する「つながりの場」を創造している。



花園町通り



アイネスフクヤマ東側歩道部分